

## 【旭区】令和7年第3回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

|              |  |
|--------------|--|
| 開催日時         | 令和7年9月5日(金) 14時00分～15時30分  |
| 場 所          | 旭区役所本館地下1階 3号会議室   |
| 出席者          | <p>【座長】くしだ 久子 議員<br/> 【議員：4名】佐藤 茂 議員、こがゆ 康弘 議員、大岩 真善和 議員<br/> 木内 秀一 議員<br/> 【旭区：24名】権藤 由紀子 区長、田畠 哲夫 副区長、<br/> 下澤 明久 福祉保健センター長、<br/> 山本 千穂 福祉保健センター担当部長、<br/> 嘉悦 明彦 福祉保健センター医務担当部長<br/> 岡本 栄里 旭土木事務所長<br/> ほか 関係職員</p>  |
| 議 題          | <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>令和6年度旭区個性ある区づくり推進費の決算について</li> <li>令和7年度旭区個性ある区づくり推進費の執行状況について</li> <li>令和8年度予算編成に向けて（案）</li> <li>横浜市都岡小コミュニティハウスの指定管理者選定結果について</li> </ol>  |
| 発 言 の<br>要 旨 | <p>【議題】</p> <p><u>1 令和6年度旭区個性ある区づくり推進費の決算について</u></p> <p>木内議員：「区役所満足度調査（P28）」のうち、事業指標の区民意識調査について、前回調査結果から低下となっているが、どれくらい低下しているのか。</p> <p>斎藤修身総務課長：区民意識調査の直近の実施は令和4年度で、「区役所の窓口対応」に対し満足・やや満足の割合は57.2%、その前の平成30年度の調査では59.4%という結果だったため、約2%の減少となっている。</p> <p>こがゆ議員：「旭区広報事業（P27）」のうち、旭区区民生活・防災マップについて、28,000部作成とあるが世帯数はさらに多いので、どこでどのように配られているのかお聞きしたい。</p> <p>西澤美穂区政推進課長：転入者の方を中心としてお配りしている。</p> |

こがゆ議員：旭区区民生活・防災マップは2年に一度発行されているが新しい情報が結構載っていて、特に防災に関する部分は最新の項目をしつかり掲載していただいている。より多くの人にこの情報をお渡しした方が良いと思う。防災情報は今プッシュ型で入ってくるものがあり、横浜市避難ナビというアプリやあさひ安全安心かわら版に登録することでいろいろな防災情報が届くようになっている。

このため多くの人がこれらの情報を得られるような仕組みを作らなければならないと思っている。実績としてどのくらいの方々が横浜市避難ナビやあさひ安全安心かわら版に登録されているのか。また、区民の皆さんにこうした情報をすぐに受け取っていただけるようなPR活動をしつかり行っていくべきだと考えるがその辺はいかがか。

齋藤修身総務課長：安全安心かわら版に関しては8月15日時点で5,739名の方にご登録いただいている。防災に関するイベントや警察関係とも連携しながらいろいろな機会を通じてご説明している。また登録のご案内も行っている。横浜市避難ナビの登録者数については住所が登録要件に含まれていないので、旭区の登録者の把握はできていない。

こがゆ議員：横浜市避難ナビは市内で60万ダウンロードと言われているので多くの方に登録していただいているとは思うが、あさひ安全安心かわら版についても、もう少し多くの方に使っていただきたいと考えている。先日熊本に視察に行ったが、市民に対しての防災意識がとても高かった。市民の皆さんに防災情報を取得してもらうための登録の働きかけをかなり強く実施している。防災グッズの中に防災アプリのPRや登録方法のQRコードが外装に入った長期保存用ようかんを配っており、このような情報が市民の皆さんに行きわたる仕組みができていた。危機感というのはなかなか持ちにくいので、予算の問題もあると思うがこのような情報ツールの登録への誘導についてもお願いたい。

佐藤議員：「認知症をみんなでささえるまちづくり事業（P22）」のうち、旭区認知症実行委員会の事業報告で、認知症初期集中支援チー

ムとあるが、どのような活動をされて、どのように実績をあげているのか。

國分忠博高齢・障害支援課長：認知症初期集中支援チームについては横浜市が依頼をしている。旭区は神奈川病院がチームを担っている。基本的には認知症が疑われる方で医療になかなか繋がらない方に対し、ケアマネージャーや区役所等も加わってチームを作り、支援を行い、医療につなげている。支援の実績については、支援が必要かもしれないということで検討したケースが50件。ただし、ご本人、ご家族のご意向が重要なため、実際に導入に至ったケースは6件。相談を受けたが導入に至らなかつた案件が3件。

佐藤議員：「街の美化運動事業（P14）」のうち、不法投棄防止対策の委託業者による夜間パトロールについて、昨今でどのような実績があがっているか教えていただきたい。

露木昇地域振興課長：不法投棄防止対策として、今年度新たに程ヶ谷カントリーの外周道路に1台設置し、既存の旭高校の外周道路を含め現在4台の警報装置を活用・維持管理を行っている。具体的に不法投棄がどのくらいなのか把握はできていないが、引き続き不法投棄が少しでも減るように対策を進めていく。

佐藤議員：夜間パトロールの事業者から様々な報告を受けると思うが、その中で特筆できるものがあれば伺いたい。

露木昇地域振興課長：1つ前の質問に戻るが、具体的な量として、令和5年度は481件で7.74t、令和6年度は369件で4.65tになっている。

菅野孝義資源化推進担当課長：今の実績についての補足だが、令和5年度から6年度にかけて減少傾向となっているが、令和7年度は増加してきている状況。

くしだ議員：「安全で安心な食と生活環境支援事業（P10）」のうち、ペット同行避難者受付セットを37拠点で配付、また、訓練の支援を4拠点で行ったとのことだが、配付をされた物資の活用状況は把握されているのか。

中条圭伺生活衛生課長：昨年度、配させていただいているが、活用状況に

については現在アンケート実施中で把握できていない。今後、活用方法も含めた動画作成を計画しており、年度内に啓発の方をを進めていきたいと考えている。

くした議員：地域の方々が主体となって進めていただくことなので、強制というわけにはいかないと思うが、こうした方が良いといった実例の紹介も含めて啓発等を進めていただけたらありがたいと思う。

## 2 令和7年度旭区個性ある区づくり推進費の執行状況について

木内議員：「区役所満足度向上事業（P30）」にお悔み窓口設置とあるが、どのあたりに設置するのか伺いたい。

齋藤修身総務課長：区役所本館1階の区民ギャラリー、情報発信コーナーあたりへの設置を考えている。設置は12月を想定している。

大岩議員：「GREEN×EXPO 2027 へ向けた機運醸成事業（P27）」のうち、事業指標として認知度向上に向けた取組30件とあるが、具体的にはどのようなことを行うのかお伺いしたい。

西澤美穂区政推進課長：現時点で21件の取組を行っており、具体的には2025旭オープンガーデンの開催、里山ガーデンフェスタやヨコハマネイチャーウィークといった区内大型イベントでのブース出展、横浜園芸国際博覧会旭区推進協議会では協議会ニュースを発行するなど様々なPR活動を行っている。今後については11月4日のGREEN×EXPO 2027開催500日前を記念して鶴ヶ峰駅の上りホームに巨大アート作品を掲示、500日前イベントも企画している。

大岩議員：事業指標に認知度90%とあるが、90%の区民のみなさんがGREEN×EXPO 2027という名称を知っているということか。名称を知っていてもどのようなことをやるのか、具体的な内容を知っている人は少ないのでないかと思うがいかがか。

西澤美穂区政推進課長：事業指標の認知度90%は目標であり、局の行った調査結果では旭区の認知度は72.1%となっている。横浜市全体が62.6%なので、市全体の平均よりは高い結果だが、具体的な内容ではなく名称を知っているかという結果なので、内容につ

いてはまだまだ知られていない状態だと思う。これから出てくる具体的な情報については引き続き区役所、旭区推進協議会とともに積極的にPRしていく。開催が迫ってきたため、大阪万博の勢いにあわせて GREEN×EXPO 2027 を横浜で盛り上げていきたいと思っている。引き続き、内容を含め機運醸成をより一層図っていく。

大岩議員：大阪万博はだいぶ混んでいた。横浜で実施した時にもかなりの人が来て波及効果が多いと思うので旭区の情報発信をしっかり行っていただきたい。現在認知度が72.1%と横浜市の中で高いのはいろいろと行って功を奏しているのだと思うが、目標の90%に向けてどのような取組を行っていくのかもう少し具体的に伺いたい。また、GREEN×EXPO 2027 の中身を知っているかという調査項目の結果はあるのか。

西澤美穂区政推進課長：具体的な内容について知っているかという調査結果は持っていない。

大岩議員：中身が分からるのは問題だと思っている。区民の方から何をやるんですかと質問があった時に答えることができない。また、局に聞いても分からぬ状態である。2年前イベントの時に一次資料や二次資料が発表されて中身が出ているので、その範囲でも区民の皆さんに情報を発信する必要があると思う。横浜市としてどのようなことをやるのかを誰かに聞かれた時に答えられるようにしておくべきなのではないかと思う。機運醸成をいろいろと行っていただいているが、GREEN×EXPO 2027 のテーマに沿ったイベントをもう少し積極的に行ったり予算を確保したり、企画したら良いと思うがいかがか。

西澤美穂区政推進課長：GREEN×EXPO 2027 の内容については今年の3月に記者発表されているほか、パンフレットも出来上がっているため、それらを活用し、まずは自治会町内会や地域の皆様にお伝えするとともに、イベント等で周知するなど、内容も含めて知っていただけるよう取り組んでいきたい。

大岩議員：旭区で緑に関する活動をされている方から GREEN×EXPO 2027 に関わりたいがどのような関わりができるのかと聞かれることがある。現時点で決まっていなくても、このような枠組みが

あるので一緒に考えましょうなど、活動されている方々を巻き込んでいくようなものが必要なのではないか。旭区にも公園愛護会など素晴らしい活動をされている方がたくさんいる。このままでは最後の最後まで一体何をやるのかと言われかねないため、脱炭素 GREEN×EXPO 推進局が中心となって行うとは思うが、旭区は進んでるねと言われるくらい区としても何をやるのか考えていただきたい。

大岩議員：令和7年度予算で GREEN×EXPO 2027 を開催するための機運醸成予算が局でいくつか計上されており、それはどういう内容なのか前回の会議の際にお伺いしたが、確認しておくという回答だったと記憶している。旭区と脱炭素 GREEN×EXPO 推進局で連携して進めていくべきと思っているが、その点についてはどう考えているか伺いたい。

西澤美穂区政推進課長：局は大規模に予算を取っており、役割分担として協会は横浜市外、国外といった広いところを広報していくというところと、局は全市的な広報戦略として、より効果的な大規模なイベント等を行なっていく。区役所としては地域と連携した広報活動を展開していく。

具体的な予算の中身はまだ確認しきれていないが、局と連携し、情報を取りながらやっている。公園愛護会についても今後局が中心となり参加型の取組を検討していると聞いていている。この辺りの情報も確認しながら区として何かできることがないかということも含めて考え進めていく。

大岩議員：GREEN×EXPO 2027 のテーマに詳しい専門家や民間企業の方を呼んでイベントを実施し、話を聞くだけでも機運が盛り上がると思う。また、テーマに対する問題や課題に関して何かをしたいという人が旭区の中でも相当数眠っていると思う。令和7年度の上半期もそろそろ終わる中で、局の予算の使い方があまり決まっていないことを心配している。局がやらないのであれば、旭区主導で月1回程度イベントを行なうなどしても良いのではないか。多くの予算をかけなくても機運醸成はできるのではないかと思い見てきたが、なかなか動かないでお伝えさせていただいた。

来年度の予算の配分や計画も含めて旭区として主導していくべきではないかと考えるがいかがか。また、区としての責任についてはどのように考えているかお伺いしたい。

権藤区長：GREEN×EXPO 2027については4年前に推進協議会を立ち上げ、多くの皆様にご協力をいただきながら開催地元区であるということで、周知を行ってきた。例えば郵便局のポストやバイクにバナーを付けていただいたり、100台以上の相鉄バスも区外も含めてバナーを掲げて走っていただいている。また、可能な限り局や協会に掛け合い、横断幕やいろいろな啓発物品を旭区として優先でいただき、地域のイベントや大規模なイベント等で周知していくということをこれまで積み重ねてきた。現時点ではテーマや理念、方向性や思いなどは出ているものの、具体的な内容についてはこれからという状況。まずは区内で開催されるということと、環境と共存した暮らしや自然と身近な暮らしというようなことがGREEN×EXPO 2027に繋がっていると自分事にとらえていただけるような取組を進めていきたいと考えている。今後、500日前、1年前ということで、具体的な内容や前売り券の販売等、解像度の高い情報が出てくるので、区民の皆様にしっかりとお届けしたいと思う。区民の皆様に行ってみたい、行ってみたら素敵だった、行って良かったと思ってもらえることが開催を盛り上げていく起爆剤だと思うので、まずは中身を知っていただき、行ってみたいと思っていただけるような設えを一緒に行っていければと考えている。旭区としては推進協議会を立ち上げており、区政推進課が事務局となっている。区長以下、区政推進課が中心となって協会や局からの情報の伝達や、区としての要望を伝えながら進めていく。

大岩議員：現時点でもいろいろな人を巻き込んでできることがたくさんあると思う。また、このテーマであれば関わりたい、一緒に協力したいという方もたくさんいらっしゃるので、そのような方を巻き込んで旭区が先行してやつたら良いと思う。本気になってやれば盛り上がる。今から頑張れば、もっと区民の方にも伝わり、一緒にやりたいという人がどんどん出てくる。旭区の未来にとってもいい循環に繋がるもののが残せると思うので、ぜひよろしくお願いします。

くした議員：「安全で安心な食と生活環境支援事業（P10）」のうち、飼い主のいない猫対策事業について、TNR活動に関する動画の作成やTNR活動を推進していくということだが、現在どのような状況なのか。

中条圭伺生活衛生課長：TNR活動に関する動画作成につきましては、実際に今活動している様子の撮影を行っており、地域の方や給餌者の方への啓発というところで活用していきたいと思っている。

くした議員：ボランティアの方々など、このような活動をされている団体が一生懸命やっているので引き続き支援をお願いします。

くした議員：「あさひのつながり応援・発信事業（P11）」のうち、旭区の空家の状況を伺いたい。

西澤美穂区政推進課長：旭区の空家の状況について、令和6年度の相談件数は76件で18区中1位となっている。今年度も7月末時点で42件の相談が来ている状況。夏場は特に樹木に対する相談が多く寄せられる。相談に対し直接何かするということはできないため、通知をお送りして対処していただくというような形となる。昨年度は37件の通知をお送りし、大体4割程度の返送があった。状況に応じて経過観察を行なったり、すぐに売却予定という場合はそこで対応終了といった形になる。

くした議員：近隣の方からの相談になると思うが、大きなトラブルが発生しているなど大変な状況というところまでは進んでいないという理解で良いか。それとも今後も注視していかなければならない状況なのか。

西澤美穂区政推進課長：そこまでのトラブルとなっているものはないが、植物のトラブルや古い家で台風等の影響等により危険な状況にならないよう、引き続き相談をお受けして素早い対応を行っていく。危険な状況にある特定空家については局に対策を依頼するなど、引き続き適切な空家対策をしっかりと行っていく。

こがゆ議員：旭区は特定空家があるのか伺いたい。

西澤美穂区政推進課長：特定空家はある。昨年度3件認定された。今年の7月末までで累計35件認定されている。そのうち家が撤去された等の改善件数は7月末時点で18件となっている。

こがゆ議員：代執行が行われているということか。

西澤美穂区政推進課長：旭区では代執行は行っていない。  
こがゆ議員：35件というのは市内全域の話か。  
西澤美穂区政推進課長：旭区だけの件数である。  
こがゆ議員：区役所の対応には限界があると思うが、対策を取れる体制を形にしておかないと所有者から連絡がないまま何年もそのままとなってしまうと思う。そこも踏まえて引き続きお願いしたい。

### 3 令和8年度予算編成に向けて（案）

こがゆ議員：決算の中でもいろいろと課題があったと思いますし、令和7年度執行状況の中でもいろいろフォローしていると思う。令和6年、7年に旭区で行った事業のレビュー等も行っているかと思う。そういったことを経て、令和8年度に新たに取り組むことや、こういう課題があるから新しく直した、あるいは廃止したというような取組があれば伺いたい。ここ3年間ほど安全・安心、地域の力など、同じことが柱となっている。時代の変化や新たな取組を行って更に活力のある旭区を作るということであれば、もう少しドラスティックに動きのある方針が良いのではないか。

齋藤修身総務課長：令和6年、7年、8年度を見据えて今後、何か大きく変更するということは従来の考え方ではなかなか難しいというのが現状だが、自主企画事業の限られた予算の中で、区民の皆さん的生活のために最大限事業効果を発揮していきたいという考え方で進めている。令和8年度の予算編成にあたっては、6年度の決算状況、7年度の予算執行の現時点での課題やその課題を踏まえた8年度の方向性を整理したヒアリングシートを各課が作成し、サマーレビューという形でディスカッションの時間を設けた。令和8年度予算はこれから作成作業に入るが、柱立てを重視しながら進めたいと考えている。

こがゆ議員：何か具体的な目標、例えば人口減少に対し、どのように食い止めていくか、高齢化のなかで要介護度をどのように下げていくか等、指標となる数字があると思うので、そういうことを踏まえて今までやってきている感じのものだけでなく令和8年度からの新たな取組としての事業を増やしていただきたい。

こがゆ議員：Ⅲの魅力づくりについて、GREEN×EXPO 2027 が開催されるため魅力発信を行うことは非常に重要だと思う。来街者への魅力発信というのは GREEN×EXPO 2027 に来ていただいた方に旭区の魅力をお伝えすることだと思うが、最寄駅は瀬谷のため旭区のどこかへ中間的に寄るという機会がなかなか無いと思う。GREEN×EXPO 2027 は旭区も会場となるため、区内外から来られる方にどのように旭区の魅力を発信していくのかお伺いしたい。中間的にここに寄ってから会場に行ってくださいというような取組などは考えているのか。

西澤美穂区政推進課長：GREEN×EXPO 2027 に合わせて旭区の魅力を知っていただくことは非常に重要だと考えている。旭区はシャトルバスの発着地となっていないため、旭区に立ち寄っていただくということが現状難しい状況であると感じており、国内外から来られる方へ旭区の魅力スポット等をいかに発信していくかが重要になるとを考えている。具体的なことはまだこれからという状況だが、旭区を含めた郊外部の魅力を知っていただくための重要なチャンスととらえて、どのようなやり方が一番効果的なのかを考えながら検討していきたい。

こがゆ議員：シャトルバスが三ツ境、瀬谷、十日市場から出るため、どうしても旭区は通過点となってしまう。その中で旭区に一度立ち寄ってもらう必要がある。例えば、パークアンドライドのパークをズーラシアの駐車場にしてそこからピストン輸送したら、ズーラシアに来る人や自然を味わう人もいると思う。一度旭区に寄る機会を設けてくれれば魅力発信できるし、西部地域はこのような魅力があるのだと全体的に知っていただけると思うのでそのような工夫をしていただきたい。

#### 4 その他（横浜市都岡小コミュニティハウスの指定管理者選定結果について）

<質疑なし>

備 考

会議の議事録作成については座長に一任で異議なし